

## 昭和53年度日本気象学会奨励金受領者選定理由書

奨励金受領者 <sup>うらの ひろし</sup> 浦野 弘 (瑞穂中学校)

研究題目 データ処理を重視した中学校気象教材の開発

### 選定理由

浦野会員は、気象教育においても自然科学としての気象学の基礎をなす観測や実験を導入し、一方的に知識を与えるという形を避けるべきだという認識の上に立って、学校で観測された時系列データの活用と、気象官署等によって得られた広範囲のデータの活用をはかることによって、中学校の気象教育がより好ましい形で行なわれ得る方法を追求してきた。

これまでは、気温の時系列データの処理と前線付近の雲量の統計処理などを行なってきたが、教科書通りの典型的な例ばかりともいえない実態を明らかにした。

同会員はまた、総観データを使用して教科書の理解を容易にする一例として、前線からの距離と雲量との関係を、天気図から生徒に調べさせ図に描かせたが、系統的变化を示す図を得た。このような事例を今後多く開発し、高層天気図や衛星写真の利用の可能性も検討して、中学教育での総観データの活用についての研究を進めようとしている。

このような同会員の研究は、正規の授業における気象データ処理の方法を開発し、暗記学科としてではない気象教育の正しいあり方を追求しようとするもので、気象教育の技術開発を推進し、教育法の振興に寄与するものと認め、本学会はここに同会員に奨励金を贈るものである。

奨励金受領者 <sup>いずみせいきち せすが まこと</sup> 伊豆味正吉・春日 信 (沖縄気象台)

研究題目 南西諸島におけるレーダ・エコーのメソ気象学的解析

### 選定理由

伊豆味・春日両会員は、熱帯性気象の直接の影響下にある沖縄気象台で第一線の気象業務にたずさわるかわら、地形の影響を受けにくい南西諸島のレーダ・エコーの推移に着目し、レーダ・エコーと気象系との関係を明らかにする研究を進めてきた。

両会員は、今後次の三点についての解析を行ない、その成果を局地気象現象の短時間予測に活用しようとしている。すなわち、

(1) エコーとアメダス雨量の関係：アメダス資料から時間雨量20ミリ以上と50ミリ以上のものを抜き出し、その雨を降らせた同時刻の観測点上のエコー強度・エコー頂高度との対応を検討する。

(2) エコーの発達・移動と局地気象資料との関係：局地天気図のほか、対流不安定度・垂直流・風などとエコーの対応を検討する。

(3) エコーと降雨期間・総雨量の関係：エコーの幅とその速度から降雨期間と総雨量の関係を求める。

本学会は、このような両会員の研究が、局地気象の研究に大きな意義をもつことを認め、その研究の推進を支援するために、ここに奨励金を贈るものである。

奨励金受領者 <sup>しまむらやすまさ</sup> 島村 康正 (高松地方気象台)

研究題目 西日本における長期予報の研究

### 選定理由

島村会員は、気象庁入庁以来16年間、予報現業業務のかたわら、現在まで一貫して「西日本における長期予報の研究」を実施してきた。

同会員は長年、夜間勤務等の間にこれ等の研究を行ない、実績を蓄積し、現在高松地方気象台での長期予報業務の責任担当者のひとりとして、また、本学会関西支部の「長期予報研究グループ」の一員として着実に活動を続けている。

同会員の研究は、半球規模でみて成層圏における前駆現象を解析し、その変化過程を通じて、既に現実に長期予報に利用されている大気大循環の諸現象、たとえば、ブロッキング長波の伝播およびインデックス・サイクル等との関係を明らかにした。

現在日本付近の海水温と1月遅れの500mb高度の関係を研究しており、今後は両者の間の関係の深い月と少ない月が生じるメカニズムを比較・検討することによって、長期予報精度の向上を期待して研究を続けようとしている。本学会は、同会員の研究が今後も「西日本の長期予報」の発展を通じて、長期予報の精度向上に寄与する所が大きく、また長期予報に関する研究の振興に貢献するものと認め、ここに奨励金を贈るものである。